

INSPIRE No.41

第5回ギフトッド教育カンファレンスに参加された方が捨てることにコミットしたことです。私たちは多くのことを子供たちに望み、求めることが多々あります。私たちはそれ以上にコミットしていることを話すのではなく、行動で示さなくてはなりません。捨てることにコミットした参加者はきっと目の前にいる子供が見ているはず。そして、これからの子育てに大きな影響を与えることでしょう。

うまくやろうとすること

一人だから

女性だから・日本人だから
子供たちへのコントロール
お金がないという思い込み
罪悪感

ギフトッド教育（カリキュラム・教育

トレーニング）わからないから

結果にこだわる・必要以上の不安

私には無理という思い込み

人からの評価・専門家ではない

教師ではない・心理学をしらない

英語ができない・忙しい

被害者意識・完璧主義・あきらめること

いい子・文字がかけられるようになるべきとい

う思考・みんなと上手くやっていける

プライバシー（ギフトッドに関わることをオープンにすること）

パソコン苦手だからムリ

興味がないから聞きたくないと思うこと・受験

でリベンジしてほしいと思っていること・私には能力がないと思っ

ていること・プライド・日本ではギフトッドの才能が伸ばせない

・過去・組織を変えることは難しいから・人にどう思われるか

気になる・集中力とPLANの完成度・旦那に対する期待・日本だけ

から・お金が必要・親よりも他の関わりが必要

面倒な子・お金がないから・人は変えることができないから

時間がないから・教育に対する諦め・わかってくれないだろうとい

うイメージ・子供に対する期待・面倒な子・先回りして準備したがる

クセ・自分を後回しにして他人を優先する習慣・心配症

お金がないから無理という考え・色々人と並みにできるようになる

ことを子供に求めること・恐怖心・家族を養っていけるか・不安

世の中の目



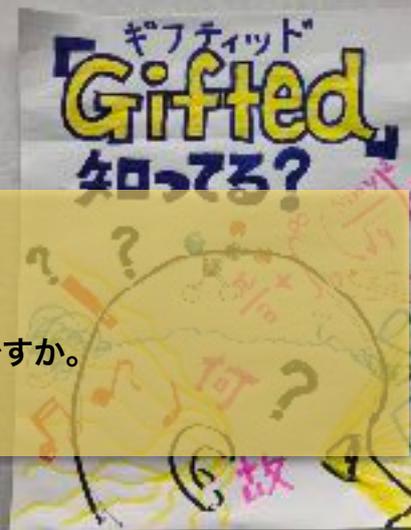
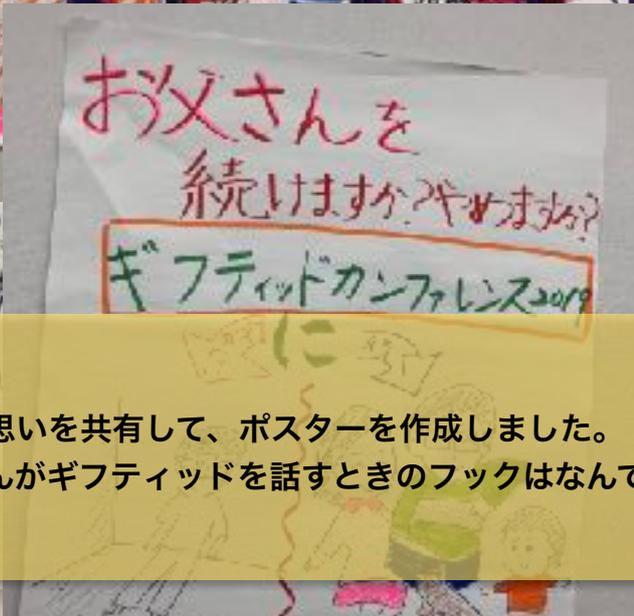
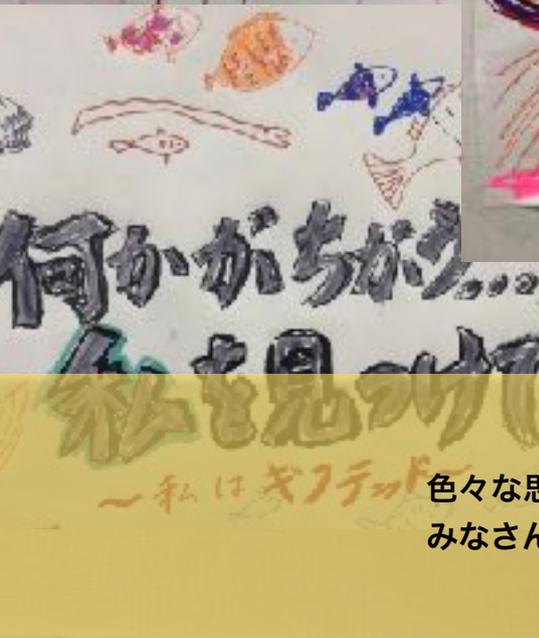
思い込み
「一しなれば」という気持ち
ち
リミット
OOだからできない
自分はできないという概念
自分には価値がないという
概念
お金がないという言い訳
勝手な期待
同一視
子供に対する「定義」「らし
さ」
先生と関わるのがストレスだ
子供にもう少し上手く振舞っ
てほしいと思うこと
無意識に子供に同化を演じる
ことで他の子のねたみをさけ
させようとする
伝えることを面倒臭がること
年齢
学歴・普通という概念
時間がないという言い訳
疲れたという言い訳
苦手だから・きらいだから
自分の仕事ができないから
迷うこと・がっかりすること
どうせ無理
教育の現場は変わらないという諦め
自信のなさ
周りからの評価

今年のカンファレンスにも多くの方に参加して頂きました。ご多忙の中、ありがとうございました。日本において、ギフトッドと見極められる子どもを育てているのであれば、一筋縄ではいかないと思っています。しかし、上手くいっていても、騙し騙し学校に行っている、質問は必ず「私の子はチャレンジされている？」そのためには、上のページに書いてある、多くの参加者が「捨てる」ということがまずは必要となります。中々、一般カリキュラムでは挑みきれない子供たちばかりです。そして、子供にどんな教育を提供するかではなく、私たち、考慮する側、提供する側、一緒にやる側、こちらの心持ちがより大切だと思っています。それは、学校だけが教育の機会ではないからです。その時、大切なのが、**ギフトッドと見極められる子供たちは千差万別**ということを理解することなんです。「ギフトッドか否か」ということに多くの時間を費やす保護者がいます。そうこうしているうちに、旬なもの、または必要なチャレンジを得られずに成長している子がいます。**ギフトッドは教育ラベルであり、義務教育の期間のみ**です。ギフトッドの子供って、どんな子なんでしょうか。ってスティーブに聞くと **"They think differently - 彼らは考え方が違う"** とだけ話しますよね。特に、多くのギフトッドの生徒たちに関わった教師は多くのギフトッドがあてはまる事を伝えて、シンプルにまとめてしまうでしょう。私たちが伝えれるのは、どんな特徴を持っているかも大切ですが、**どんな存在の子どもたちなのか**ということです。理解だけでなく、挑まなくてはなりません。チャレンジされないと、学びがつまらなくなったり、友達とつながらなくなったり。自分にチャンスを与えられなくなるんですよね。自分にチャンスを与えるというのは、教育的なリスクを負うことができるということです。まだ自ら足を踏み入れていない学術分野、社交面でのグループ、表現したことのない気持ちのレベル。または、単に、周りのアドバイスに耳を傾けることもそうでしょう。**快適ゾーンの外に出て冷や汗をかかなくてはなりません**。そして、ギフトッドの子供たちを育てているのであれば、**感情知性スキル**を習得しなくてはならないことを感じているはずですよ。日本にも色々なギフトッドと見極められる子供たちが日本にもいます。決して、わかりやすい子供たちばかりではありません。レーダーに引っかからない子。周りと同調して合わせている子。ギフトッドの子供たちはとっても繊細ですよ。

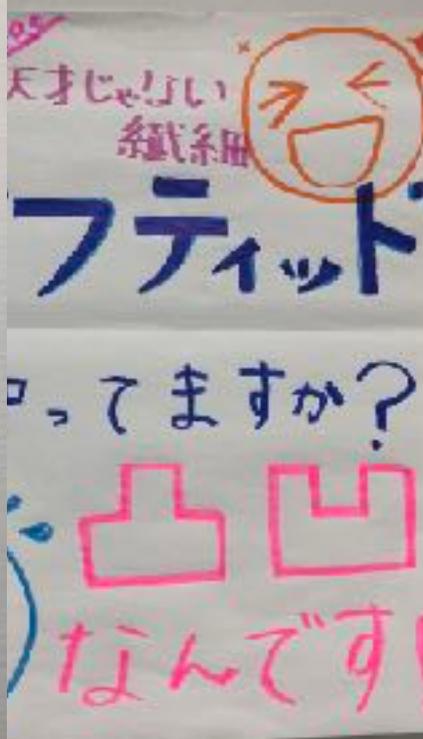
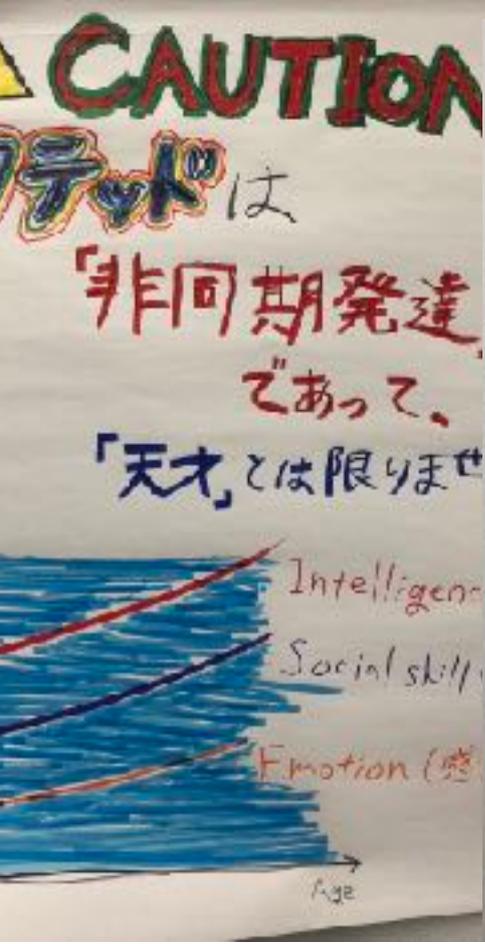
2019年は、皆さんが「捨てた」ものではなく、「提供できるもの」を元に、皆さんと一緒にギフトッドの子供に挑みたいと計画をスタートしております。

ChALLENGE

カンファレンスはきっかけです。これを機会に、ギフトッドの勉強会、または親の会などを通して、目の前にいる子どもたちに挑んで頂きたらと思います。- NPO法人Feelosopher's Path Japan代表 今瀬



色々な思いを共有して、ポスターを作成しました。
みなさんがギフテッドを話すときのフックはなんですか。



勝てるところで勝負

偏差値の高いブランド校を卒業、そして安定したブランド大企業に就職。一度入ったら何が何でもしがみつく。我が子に合わない学校や会社であっても、ブランドと安定が大事！継続は力なり！それが一番正しい幸せへの近道と幼少から刷り込まれてるのが、私たち戦後日本人の幸福感ではないでしょうか？

しかし、ギフトッドのわが子にとっては違うと思いませんか？「勝てるところで勝負」とは、我が子の特性や能力が生かせるところ（学校や会社等居場所）で勝負、我が子の持っているところ（長所や才能等）で勝負という意味です。有名であったとしても、大多数がマッチしたとしても、我が子が生き辛いところで、マイナス面や苦手を少しでも平らにしてから勝負しようとしても、負けることが目に見えています。石の上にも3年だと？3年も現状維持したら、ギフトッドは心も身体も蝕まれて復活さえも危うくなってしまいます。

恋愛市場ならば、自分のチャームポイントを相手にアピールしませんか？また、お付き合いしても合わなかったらお別れして、前向きに次の相手に挑みませんか？みんな好みも多種多様です。いくらモテモテの好条件な相手でも、自分に合うとは限りません。相手に自分を理解してもらおうと必死にアピールしても、片思いならなおのこと、相手が優位で恋愛成就率は低いのが現状です。

ゆえに、学校や会社選びも恋愛市場と同様と思いませんか？勝てるところは世間的には無名な学校や会社、または自分が起業することかもしれません。勝てるところは協調性などの社会性でなく、創造性やリーダーシップやユーモアなのかもしれません。

ギフトッドがハッピーになるために、「勝てるところで勝負」しよう！

- M.I

